

指導資料

情報教育 第92号



高等学校，盲・聾・養護学校対象

平成15年11月発行

普通教科「情報」における インターネットショッピングの指導の在り方

近年，インターネットの普及に伴い，インターネットショッピングの利用者が増加している。このインターネットショッピングは，世界中の商品をいつでも購入できるという利便性とともな，場合によっては，悪質なトラブルに巻き込まれる危険性も含んでいる。しかし，利用者には，自らの意思で商品を探し，選択しているという意識が薄く，トラブルに巻き込まれて初めて，自己責任を問われていることに気付くことになる。

そこで，本稿ではその概要や問題点，指導のポイント，普通教科「情報」とのかかわりなどを紹介し，インターネットショッピングの指導の在り方を述べる。

1 普通教科「情報」とインターネットショッピング

普通教科「情報」の目標の一つに，「情報社会に参画する態度」の育成がある。ここでは，情報化が社会に及ぼす影響を認識させ，望ましい情報社会の在り方を考えさせることが目標となっている。また，情報化の進展が社会を発展させ，充実させてきたことを学ばせるとともに，それに伴って生

じた課題などについて考えさせることがねらいである。さらに，誤った情報や偏った情報が人間の判断に及ぼす影響，不適切な情報への具体的な対処法や心構えなどを考えさせることもねらいとしている。これらのことを指導する教材として，今後ますます広がりを見せるインターネットショッピングを位置付けることができる。



インターネットショッピングのサイトで学習する生徒

2 インターネットショッピングの概要

インターネットショッピングとは，インターネット上のホームページ（バーチャルショップ）で商品を吟味し，画面上や電子メールで注文すれば商品を購入できるシステムのことである。

代金の支払方法には，「代金引替」，「銀行振込」，「郵便為替」，「クレジットカード」などがある。他のどんなメディアによる注文

よりも、簡単でスピーディに処理できる。
最近では、一定額以上購入すれば値引きが
なされたり、送料を無料にしたりするサイ
トもある。中には 顧客の購入履歴を見て、
お薦め商品のピックアップサービスをする
サイトも出てきている。

3 インターネットショッピングの安全性 に関する問題点

インターネットショッピングにおける問
題点は、主に次の2点である。

ネット詐欺に遭う可能性

個人情報漏洩^{ろうえい}の危険性

ホームページを見るだけでは、誇大広告
等があり、購入先の信用状態の把握が難し
い。また、代金を支払ったのに商品が届か
ないという詐欺商法も問題になっている。

さらに、インターネットショッピングで
購入する場合、氏名、住所、電話番号など
の個人情報を入力する機会が多い。それら
の情報が、データ送信時にネット上で第三
者に盗まれ、データを悪用されるという危
険性がある。

4 被害・トラブルに遭わないためのポイント

被害・トラブルに遭わないためにどのよ
うなことに注意すべきか、指導のポイント
を述べる。

(1) 業者の信用性の確認

ネット上の膨大なショップの中から、
信頼性の高い店を自力で見付け出すのは
至難の業である。そこで、店舗の信用性
を確保するために設けられたのが、オン
ラインショッピングトラストマークやプ

ライバシーマークである。

前者のマークは、通信販売業者が実在す
ることをWeb上で証明するものであり、
日本商工会議所が付与する。画面上のオン
ライントラストマークをクリックすると、
許可されたアドレスが表示されるので、自
分が開いているページのアドレスと同じか
どうかを確認することができる。

また、後者のマークは、「大切にしますプ
ライバシー」という文字の書かれたロゴマ
ークである。経済産業省の「財団法人日本
情報処理開発協会」が、個人情報を適切に
扱っている民間業者に対し、付与している
ものである。



オンラインショッピングトラストマーク

プライバシーマーク

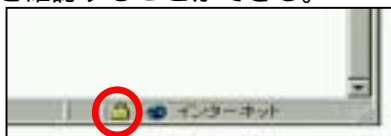
(2) 特定商取引法に基づく表示の確認

国内のインターネットショッピングは、
特定商取引法の通信販売に該当する。事業
者のホームページや広告には、以下のよう
な表示義務がある。その表記の有無、もし
くは不完全なところがないかをチェックす
ることで、信頼できる商店かどうかを見極
めることができる。

販売価格
送料
代金の支払時期及び方法
商品等の引き渡し時期
商品等の返品可否と条件
販売業者氏名
住所
電話番号
責任者もしくは担当者名

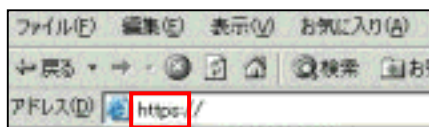
(3) セキュリティシステムの確認

クレジットカードの利用で、会員番号などの個人情報を入力する場合には、SSL (Secure Sockets Layer ; エス・エス・エル) などのセキュリティシステムが採用されているか確認する。SSLとは、データを送る際、暗号化して盗用や改ざんを防ぐセキュリティ技術のことである。SSLセキュリティサイトに入ると、ブラウザの右下画面には下記のような錠マークが表示される。このマークをダブルクリックすると、そのサイトのセキュリティに関する証明書を確認することができる。



ブラウザに錠マークが表示されている画面

また、SSLモードの場合、プロトコルがhttp://~ではなくhttps://~である。



プロトコルがhttps://に変化している画面

(4) 代金決済方法の確認

インターネット上のアドレスだけでは業者の実際の所在は分からず、業者が意図的にインターネット上の店舗のデータを消し「くもがくれ」してしまえば、その所在を探し出すことはほとんど不可能である。また、販売店の名前を勝手に借用してホームページを偽造する「なりすまし」のケースも増えている。特に高額商品購入の場合は、受け取り後に代金を払うのが安全で、前払いは避けた方がよい。

(5) 返品制度等の確認

インターネットショッピングでは、商品

の色合いがモニタによって微妙に異なり、誤って何回も注文画面をクリックしたりする可能性がある。このような場合、クーリングオフ制度は適用されない。そのため、返品特約等、購入後の対応がどのようになっているかを確認し、よく考えてから注文する必要がある。

5 安全なインターネットショッピングを学習できる教材を活用した授業の進め方

インターネットショッピングについて学習できる教材として、ネット社会の歩き方 (コンピュータ教育開発センターのEスクエアプロジェクト <http://www.net-walking.net/>) のコンテンツに電腦商店街がある。この教材は、インターネットショッピングについてのトラブルや発生原因を提示し、なぜ問題なのか、どのような点に注意したらよいか、問題が発生した場合の対処法について学習する教材である。



ネット社会の歩き方 (電腦商店街) のサイト

授業の進め方としては、まず、生徒たちにインターネットショッピングで実際に起きた被害事例を簡単に提示する。そして、グループごとに被害に遭わないように気を付けながら買い物をさせる。その後、気付いたことを話し合い、まとめさせる。最後に、グループごとのまとめを発表させ、インターネットショッピングを安全に行うためのポイントを確認させる。

6 インターネットショッピングの学習指導案例

単元名等	電子商取引	本 時	第 1 / 2 時
本 時 の 目 標	身近になってきたインターネットショッピングに注目し、その現状や問題点を理解し、ネットワーク社会の利便性と危険性、自己責任の重要性について理解を深める。		
段 階	学習活動	指導・評価の留意点 (は、評価を示す)	
導 入 (5 分)	1 課題（インターネットショッピング利用の留意点）を確認する。 2 インターネットショッピングの際に注意することを考える。 ・ 意見交換をしながら、ワークシートに記入する。	グループごとに、考えさせる。 考察・意見交換を積極的に行っているか。 禁制品の販売や詐欺など、ネット社会には法律やモラルに反する状態が存在することを意識させる。関連記事等準備。	
展 開 (40 分)	3 インターネットショッピングのサイトを閲覧し、支払方法の種類と利便性・安全性について考える。 ・ どのような支払方法があるかを調べ、各方法の長所・短所を考えてワークシートに記入する。 ・ 意見の発表・交換をする。 4 暗号化や認証マーク、セキュリティポリシーについての記述の存在を確認し、その重要性を理解する。 ・ 個人情報の入力や確認のページには、URL の先頭が「https://」で始まりブラウザの右下に錠のアイコンが表示されるものがあることを確認しその意味を理解する。 ・ サイト中の認証マークやセキュリティポリシーについての記述を確認する。	各自検索をさせる時間を設ける。 実際の手続きの様子や関連した資料を準備し示す。例：注文確認メール・Webマネーカード・コンビニ端末等の実物・説明資料・手続き風景映像等。 各方法の利便性・安全性に視点をおいて、長所・短所を適切に判断できるか。 利便性の高い(簡便・短期)方法では、重要な個人情報(クレジットカード番号、メールアドレス等)の入力・送信が必要であり、その流出が懸念されることに気付かせる。 個人情報流出の対策がなされていることとその必要性に重点をおいて説明し、暗号化の仕組みなどについては深入りしない。 キーロガー(キーボードから打ち込んだすべての情報を記録するソフト)を悪用した事例等を示し、「個人情報流出対策がなされているサイトを利用していけば安心」ではないことも示す。 ネットワークセキュリティ対策(対策ソフトの導入)の必要性や不特定の端末からの個人情報入力(危険性やID・パスワード等の定期的な変更の必要性)を理解させる。	
ま と め (5 分)	5 インターネットショッピングを利用する際に個人が留意すべきことを確認する。 ・ 意見交換をしながら、ワークシートに記入する。(「導入」の際の記入に追記) ・ 次時の学習の確認をする。	ネットワーク社会における自己責任の重要性を認識させる。 ネットワーク社会の利便性と危険性、自己責任の重要性の認識が深まったか。	

(県立宮之城高校 野呂英弘 教諭による指導案を基に作成)

インターネットショッピングの利便性は、ますます向上してきている。しかし、その危険性については授業を通してだけでなく、機会あるごとに生徒に警告しておくことで、自己責任の重要性を認識させることが大切である。また、保護者に対しても十分に啓発し、家庭と連携を図りながら継続的に指導に取り組む必要がある。

そして、万一、インターネットショッピングで被害に遭った場合は、教師や保護者に相談するとともに、独立行政法人国民生活セン

ター (<http://www.kokusen.go.jp/>) や社団法人日本通信販売協会 (J A D M A , <http://www.jadma.org/>) , 全国の消費生活センター (<http://www.kokusen.go.jp/map/>) 等を利用するように指導するなど、ネットワーク社会に対応できる能力の育成を目指し、計画的に指導してほしい。

【参考文献】

文部省『高等学校学習指導要領解説 情報編』
平成 12 年 3 月

(情報処理教育研修室)